

いきもの記

Vol.82 2023.6.22

3年3組 下山田 樹

嫌いだけど気になる存在 ナメクジ

さてさて梅雨になった。筆者の嫌いな季節である。何故だかは読んでいただけたらすぐにわかるだろう。ところで、誰も嫌いなものは一つはあるだろう。しいたけ？セロリ？オバケ？はたまた怒った母さんだろうか？筆者が**この世で1番嫌いなものはナメクジである**。小さな時のトラウマがあるのだ…。だから見つけるやいなや大発狂。ナメクジが視界に入るだけでめちゃくちゃビビるのだ。それなのに雨の日やらジメジメした夜は家の下に大量発生するもんだから気分最悪。ヒーヒー言いながら猛ダッシュで階段を駆け上がる。顔についた日には泣き叫びながら取るのだろう（う想像しただけで悪寒がする…）。だからというかなんというか、**嫌いなものってのは好きなものくらい良く知ってしまうものなのだ**。

そんなわけで今回は（好きな人には申し訳ないが）、気持ちの悪いナメクジ回である。日本には大体20〜30種生息しているそうで、一般的に見られる種はチャコウラナメクジが多い（詳しく研究してる人が少ないのか、正確な種数はいまいち分からなかった。研究で成果を出しやすい部類の一つかもしれない）。有名な話だがナメクジやカタツムリの仲間は広東住血線虫という寄生虫を伝搬するので、直接触るのは避けた方がいいだろう。ナメクジというと雨の日にコンクリートなんかについているが、実はあれは**コンクリートの表面に生えている藻類を、歯舌という器官で削り取って食べている**のだ。コンクリートを食べていると思われがちだが、それは科学的に証明できていない。ちなみにカタツムリもコンクリートからカルシウムを補給するなんて書いてあることがあるが、そんなこともない。この**歯舌**だが、ヤスリ状になっていて約1〜2万本歯が並んで生えている（ナメクジに限った話ではなく巻貝なんかも持っている）。この歯舌で色々なものを削って食べるのだ。ただ、色素は消化できないようで、カタツムリもナメクジも食べたものの色のフンをする。みなさま一度はカタツムリにニンジンをあけて、オレンジのフンをしているのを見た経験があるのでは？

ここでおまかなの（筆者だけかな？）天敵なのだが、鳥やカエルやオサムシの仲間は勿論、クガビルの仲間（ヒルの仲間）やコウガイビル（プラナリアに近い種）等の生物などだ（筆者はこいつら大好きである。だってナメクジ食べてくれるから）。これらに襲われるとなすすべなく食べられてしまうのだろう（反撃の術なんて身につけないでよ…）。あとは、ナメクジのうちチャコウラナメクジなんかのコウラナメクジ科は背面前部に小さな**甲羅状の殻**を持つ。機会があれば背中をツンツンして確かめてほしい。

最後に、ナメクジというイラガという蛾の幼虫も思いつく。英語では**slug caterpillar**（ナメクジ毛虫）と**気持ち悪さのバーゲンセールみたいな名前**である。なぜナメクジ毛虫かというと、イラガの幼虫は腹脚が退化していて脚が見えない。そのため腹面全体の粘着力を使った蠕動により前進する。その様子がナメクジに似ていたのだろう。脚がないのでイラガの幼虫は手に乗せるとなんとも言えないひんやりした感覚で気持ちがいいのだ（※）。

（文・写真 下山田樹）



チャコウラナメクジ
Lehmannia valentiana

カタツムリもナメクジも貝の仲間である。巻貝のうち陸上に上がった系統は複数いるので、それらを総称して「カタツムリ」と呼ぶ。さらに陸生巻貝のうち、殻が退化したものを「ナメクジ」と呼んでいる。決して、カタツムリの殻を奪い取ってもナメクジにはならない。別種である。チャコウラナメクジなどのコウラナメクジの仲間は、背中に殻の名残である小さな甲羅をもつ。ナメクジは殻が退化した分、殻を作るエネルギーが不要になり、さらに、狭い隙間にも入り込みやすくなった。一方で乾燥には弱くなった。



痕跡的な殻